

イベント

全国各地で多様な主体により開催された様々なイベントの一部を紹介する。なお、この他にOS企業主催のイベント等も多数実施されたが、それらについてはこれまでのページに記載している。

「国際会議におけるサンゴ礁保全の動向」報告会

- 日時：1月 19日（金）19:00～20:30
- 場所：地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）
- 主催：特定非営利活動法人アースデイ・エブリディ（共催：環境省）
- 概要：国際サンゴ礁年 2018 の一環として、国際会議におけるサンゴ礁保全の動向についての報告会を開催。2017 年 9 月にチリのラ・セレナで開催された第 4 回国際海洋保護区会議（IMPAC4）での話題について、また、2017 年 12 月にケニアのナイロビで開催された国際サンゴ礁イニシアティブ（ICRI）第 32 回総会での話題について、それぞれの会議参加者から説明された。
- 来場者数：9 人

サンゴ復活応援プロジェクト～千人でサンゴ苗作り～

- 日時：1月 21 日（日）9:00～11:00
- 場所：石垣市立八島小学校 体育館
- 主催：石垣市、サンゴ復活応援プロジェクト実行委員会事務局
- 概要：石垣市の市制施行 70 周年の記念事業として開催。講師を招き「サンゴ礁の危機～サンゴの白化現象に向き合うには～」と題して、サンゴの生態やサンゴ礁の役割と現状、サンゴ養殖の実績や課題などのレクチャーを行った。このレッスンはギネス世界記録『Largest coral aquaculture lesson（サンゴ養殖レッスン最多参加者数）』の挑戦も兼ね、参加者数の多さで世界一を目指した。レッスン終了後にはサンゴ苗作り体験を実施。株分けしたサンゴを 1 人に 1 つずつ配布して、実際に海に移植するためのサンゴ苗を作成。出来上がったサンゴ苗は、八重山漁業協同組合やダイビング協会等の協力を得て、当日午後に近海のサンゴ畑へ移植された。
- 来場者数：約 250 人

サンゴ礁保全シンポジウム～宮古の海を守ろう！～

- 日時：2月 4 日（日）10:10～11:30.
- 場所：JTA ドーム宮古島
- 主催：環境省、宮古島市（共催：沖縄県）
- 概要：サンゴ礁生態系保全行動計画及びサンゴの大規模白化現象に関する緊急宣言の周知と理解を図るためにシンポジウムを、宮古島市が開催する「エコの島コンテスト」と同会場で開催した。
- 来場者数：約 400 名



サンゴ礁 ウィーク 2018

- 日時：2月 24 日（土）～3月 11 日（日）
- 場所：沖縄県内各地
- 主催：沖縄県サンゴ礁保全推進協議会
- 概要：サンゴ礁を大切にする県民の心を育むため、沖縄県内外各地で海の観察会やワークショップ等、計 26 件のイベント（下記 3 件のイベントを含む）が開催された。
- 来場者数（全イベントの総計）：約 2,040 名



さんごの海フェスタ in 久米島

- 日時：2月 25 日（日）13:30～16:30
- 場所：具志川農村環境改善センター
- 主催：沖縄県
- 概要：沖縄県の事業の取組を紹介するとともに、久米島町の方々にサンゴ礁保全再生を呼びかけることを目的として、イベントを開催した。
- 来場者数：約 220 名



ニッポンハムグループサンゴ礁再生プログラム

- 日時：2月 25 日（日）
- 場所：Gala 青い海およびさんご畠
- 主催：日本ハム株式会社
- 概要：公益財団法人日本環境協会「こどもエコクラブ」の沖縄県内の子ども達とニッポンハムグループの従業員とその家族などが参加。世界で初めて人工による養殖サンゴの移植・産卵に成功した金城浩二氏よりサンゴの生態や海の役割のお話を聴いたほか、生きたサンゴに直接ふれてサンゴの苗床をつくった。
- 来場者数：約 80 人

さんごの海フェスタ in いとまん

- 日時：3月 11 日（日）13:00～18:00
- 場所：道の駅いとまんイベントスペース
- 主催：沖縄県
- 概要：沖縄県の事業の取組を紹介するとともに、県民の方々にサンゴ礁保全再生を呼びかけることを目的として、イベントを開催した。
- 来場者数：約 440 名



Coral Reef Conservation: Promoting Awareness through Effective Communication

- 日時：5月15日（火）13:00～16:00
- 場所：筑波大学 東京キャンパス文京校舎
- 主催：筑波大学（共催：タラ財団、フランス大使館、環境省）
- 概要：タラ財団がフランス国立科学研究中心等と共同で、平成28年5月から2年以上をかけて、タラ号という船を使い、太平洋のサンゴ礁の生物多様性や気候変動への適応、進化の実態解明を行っているプロジェクトを進めている。このタラ号での調査の事例も含め、サンゴ礁保全において、社会、科学者、政策立案者といった多様な主体の間でどんなコミュニケーションをとれるかについて、専門家同士が議論するシンポジウムを開催した。
- 来場者数：約50名



エコライフフェア

- 日時：6月2日（土）～6月3日（日）
- 場所：代々木公園
- 主催：環境省（共催：渋谷区）
- 概要：エコを楽しく体験・体感できる展示やステージ、ワークショップなどで、今日からできるエコライフを提案するイベント。国際サンゴ礁年をPRするためのブースを出展し、OSであるソニー企業の協力によりサンゴ礁3D映像を上映し、コーラル・ネットワークの協力によりサンゴ骨格染めワークショップを実施した。ステージでは、アンバサダーであるさかなクンによるサンゴ礁にまつわるトークショーが行われた。
- 来場者数：イベント全体43,347名（国際サンゴ礁年ブース：約600名）



サンゴ礁保全再生・オニヒトデ研究連携協定締結記念シンポジウム

- 日時：6月5日（火）13:30～17:10
- 場所：沖縄科学技術大学院大学（OIST）
- 主催：沖縄県
- 概要：沖縄県とオーストラリア国立海洋科学研究所（AIMS）が、オニヒトデに加えサンゴ礁保全再生を含む包括的内容を盛り込んだ新たな協定を締結したことを記念し、シンポジウムを開催した。
- 来場者数：約120名



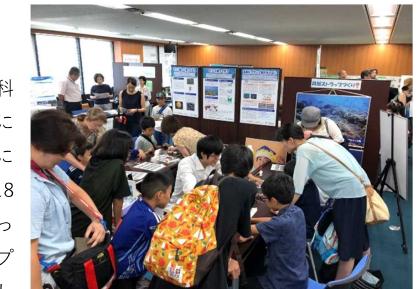
国際サンゴ礁年2018記念セミナー「サンゴと共生する社会とは」

- 日時：6月20日（水）18:30～20:30
- 場所：国連大学本部
- 主催：地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）、国連大学サステイナビリティ高等研究所（UNU-IAS）、一般社団法人 SDGs市民社会ネットワーク（SDGsジャパン）
- 概要：国際サンゴ礁年2018を記念した本セミナーでは、国、企業、国際機関から、環境教育を通じた保全活動、ビジネスを通じた保全、SDGsにも関係する国際動向を紹介した。後半の議論では、保全をビジネスと繋げてゆくこと、サンゴから経済や社会、消費との関係を考え、情報を効果的に発信することの重要性が各ステークホルダーや参加者と共有された。
- 来場者数：76名



子ども霞が関見学デー

- 日時：8月1日（水）～8月2日（木）
- 場所：環境省（中央合同庁舎5号館）
- 概要：夏休みに開催したこのイベントは、文部科学省をはじめとする各府省庁などが、子供たちにどんな仕事をしているかを知ってもらうために行っているもの。環境省の国際サンゴ礁年2018コーナーでは、慶良間諸島から届いた貝殻を使ったオリジナルストラップ作りのワークショップを行い、サンゴ礁のすばらしさや大切さを紹介した。
- 貝殻ストラップ作り参加者：約200名



丸の内キッズジャンボリー2018

- 日時：8月14日（火）～8月16日（木）
- 場所：東京国際フォーラム
- 概要：アラムコ・アジア・ジャパンと沖縄県サンゴ礁保全推進協議会が、沖縄のサンゴ礁を県外の人にもっとよく知ってもらうため、「サンゴ礁ってなに？ おきなわから出前教室」というプログラムを企画し、東京で開催されたイベントに出展した。
- プログラム参加者数：約240名



財団設立30周年記念シンポジウム「サンゴとサンゴ礁の生き物たち」

- 日時：9月22日（土）13:30～16:30
- 場所：東京大学農学部弥生講堂 一条ホール
- 主催：公益財団法人 水産無脊椎動物研究所
- 概要：今年は国際サンゴ礁年でもあることから、このシンポジウムでは刺胞動物「サンゴ」に注目し、サンゴとサンゴ礁における多様性や相互関係などをテーマに、5名の研究者による一般向けの講演を行った。サンゴのほかに、サンゴ礁で見られるウミクワガタ（節足動物）、クモヒトデ（棘皮動物）、小型浅海性魚類、奄美のサンゴ群集やそこに棲む生き物などの知られざる世界を紹介した。

GTFグリーンチャレンジデー2018 in 新宿御苑－つなげよう、支えよう森里川海－

- 日時：9月29日（土）
- 場所：新宿御苑
- 主催：GTF グレータートーキョーフェスティバル実行委員会（共催：環境省、ほか）
- 概要：環境保全や生物多様性の大切さを伝えるイベント。国際サンゴ礁年をPRするためのブースを出展し、OSであるソニー企業の協力によりサンゴ礁3D映像を上映し、コーラル・ネットワークの協力によりサンゴ骨格染めワークショップを実施した。



東京湾大感謝祭「WONDER ACTION CAFÉ」「WONDER CORAL CAFÉ」

- 日時：10月20日（土）～10月21日（日）
- 場所：横浜赤レンガ倉庫
- 主催：環境省、東京湾大感謝祭実行委員会
- 概要：「海にいいこと、やさしいこと、はじめよう！」をテーマに、市民や企業、団体と国や自治体がともに、海の再生を考え、行動するきっかけを提供するイベント。OSをはじめ、サンゴ礁や海の保全に関わりのある方々によるトークショーが行われた。
- 参加OS：株式会社コーネー、株式会社サンシャインエンタープライズ、ジーエルイー合同会社、株式会社ナウイエンタープライズ、株式会社PADI Asia Pacific Japan、株式会社BSAC、Head Japan株式会社SSI事業部
- 来場者数（イベント全体）：10万5千人



国際サンゴ礁年　さんごゆんたく館ミーティング

- 日時：11月9日（金）13:30～16:30
- 場所：さんごゆんたく館
- 主催：慶良間諸島国立公園さんごゆんたく館管理運営協議会
- 概要：沖縄県座間味村阿嘉島に2018年3月5日（さんごの日）にオープンした「さんごゆんたく館」において、OSをはじめとした各主体によるサンゴ保全活動や調査等に関する報告や展示が行われた。
- 参加OS：アジア航測株式会社、鹿島建設株式会社、ジーエルイー合同会社、株式会社東京久栄
- 来場者数：40名



日本サンゴ礁学会第21回大会自由集会

「教材「サンゴのテリトリー・ウォーズ」を題材にしたサンゴ礁の教育教材研究集会」

- 日時：11月23日（金）18:00～20:00
- 場所：琉球大学千原キャンパス 理系複合棟609教室
- 主催：NPO法人海の自然史研究所
- 概要：サンゴとサンゴ礁の基本事項を学び、サンゴ生態系の保全、回復及び将来の被害の発生を回避するために、人為的負荷を軽減し抑制することを考えるよう設計された参加体験型の科学教育プログラム「サンゴのテリトリー・ウォーズ」を題材に、学習の流れの体験と、開発プロセスや教材の特徴などを紹介した。また、教育プログラムとして教材を設計する際に留意すべき教育学的背景をとりあげ、サンゴ礁保全意識の醸成を目的とする学習教材について議論した。
- 来場者数：8名



国際サンゴ礁年 2018活動登録制度

国際サンゴ礁年2018の趣旨に沿って実施される活動・イベント等を登録し、Facebookを通じて多くの人に参加を呼びかけるもの。登録された活動は、環境省により記者発表やHP掲載等を積極的に行なった。

登録ボランティアがソーシャルメディア・コミュニケーションガイドラインに従い、活動登録希望者によりweb上の登録フォームから送付された情報を判断し以下のページに掲載した。

<https://www.facebook.com/IYOR2018JP/>

